

公開セミナー 『4K時代の撮影と編集』

今年度の公開セミナーは、浜谷修三氏にお願いして11月30日(土)午後1時30分から5時まで、柴崎学習館の第一視聴覚室で行われました。参加者数は14名(当クラブ会員9名、外部聴講者5名)でした。浜谷修三氏は元NHKのチーフカメラマンとして活躍され、その後もさまざまな分野の撮影で活躍されています。今回は撮影に関して、撮影手法や機材の紹介をしていただきました。



・初めに

アマチュアカメラマンが上手にならないのは基本が出来ていないのが大きな原因である。テーマの決め方とそれを生かすためのデータ集めが肝要である。又感性と運も必要で努力だけではうまくゆかない事もある。

・撮影の基本

撮影の基本は“引いて撮る、少し寄る、もっと寄る”の組み合わせである。単調な映像の連続ではすぐに飽きられる。と言ってズームインやズームアウト、パンなどを多用すると非常に見にくくなる。撮影技術は日ごろからの練習が重要で、機会あるごとに新しいものにも目を向ける必要がある。練習を積むことによって、アイリス(明るさ)、ホワイトバランスなどが勘で合うようになる。4K撮影はピントの甘さなどのあらが目立ちやすいので、注意する必要がある。4KカメラとしてはAX-700が使いやすい。これはZ90というプロ用カメラと同じような仕様で、安定した撮影ができる。複数カメラを使用したマルチカム撮影ではRX0を固定で置いておいても効果的な画が撮影できる。

・ビデオとは

ビデオとは、当然であるが映像と音が合わさってできている。4Kで映像がきれいになった分、音の収録も注意したほうが良い。BGMよりも現場の音を重要視すべきである。核心を突くインタビューや映像で主観を示し、その人の考えを表す。

映像はわかりやすく、だれが見ても理解しやすいほうが良い。

撮影・編集・取材の3つの要素が得られれば作品は出来る。

問題は自分が何をやりたいかの内容が重要である。

映像は理論を聞いても上手にならない。指導者と一緒に行動して現場で撮影を習えば技術は向上する。

なぜ上達しないのか・・・テーマの決め方なども検討する。

なぜ面白くないのか・・・努力だけでは解決しない。センスも重要。



・だめカメラマンの特徴

カメラワークのトレーニングをしない
言い訳が多い、反省しない
ビデオ雑誌の記事は全部真実と思っている
好奇心に乏しい
新しいものに興味がない
機材や画質にしか興味がない
人間に対して興味がない
腰が重い（体より先に口が動く）



・ドローンの紹介

空撮と言えばヘリコプターを手配しての撮影だったが、かなり大変なことになっていた。ドローンの出現により空撮も簡単になり、小型カメラの進化によりきれいな映像が手軽に撮れるようになった。ドローンに搭載するスタビライザーのおかげで、非常に安定した映像撮影が可能である。
有力な取材方法である。上空からの映像は放送の最優先ツールとなっている。
撮影技術とドローン操縦技術両方の習得が必要となる。

・スタビライザーの紹介

スタビライザーは移動しながら撮影するドリーショットなどに使用される機材。これにより画面が格段に安定するようになる。3軸ジンバルは X,Y,Z 方向に対して小型モーターでアクティブに制御していく。
やじろべえの様にカメラを体の重心に持ってくる。撮影中持ち歩くと結構重いので力がある。移動はすり足のよう、上下動をなるべく少なくしたほうが良い。



6年ぶりの浜谷氏のセミナーは懐かしい映像や、最新の機材を使用した映像など、変化に富んで面白い話が多くありました。ここに書ききれないものも多くあり、時間が押し、質疑応答も時間切れになってしまいました。

例会のお知らせ

2月以降の定例会の予定

2月15日（土）柴崎学習館 第1教室

3月7日（土）同上 第2教室

4月18日（土）同上 第1教室

開催時刻はいずれも13:30からですが、早めに来場して会場準備等に協力をお願いします。

（編集後記）

ピンチヒッターで、久しぶりに会報を担当しました。セミナーも久しぶりで、普段得られないような話が聞けましたので参考になりました。今後も、機会がありましたら受講したいと思います。

（荒木 勉 記）